



優秀賞 静岡県建築士事務所協会賞

湯ヶ島地域交流拠点整備（<sup>かみ</sup>上の家）（伊豆市）

受賞者 伊豆市観光協会天城支部  
工学院大学建築学部 意匠・材料研究室グループ  
株式会社 イズケン  
伊豆市



アクセス 伊豆縦貫自動車道天城北道路「月ヶ瀬IC」から車で約10分  
所在地 伊豆市湯ヶ島地内



伊豆市湯ヶ島は、文豪・井上靖が少年時代を過ごした地域であり、自伝的小説「しろばんば」の舞台となった建物や当時の情景が残る場所が現存しています。

その一つに、井上靖の母の実家である「上の家」と呼ばれる蔵造りの建物があります。

建築後約150年が経過した「上の家」は老朽化が進み、景観を損ねる箇所が目立ち、また、耐震面でも脆弱なため地域でこの建物を保存改修することになりました。

改修については、耐震性の確保のほか、明治期に建築された部分は現状を保存すべきとの観点から最低限にとどめ、増築部分については、活用しやすいように「リノベーション」とともに明治期の趣を感じることができるように配慮しました。

増築部分については、「工学院大学建築学部」の学生や地元業者を中心に学生の創造性と大学の持つ専門性及び施工業者の持つ技術を活用するため、「産学官連携」により改修を行いました。改修資金については国、市の補助金のほかにクラウドファンディングにより募り、多くの支援金が寄せられました。

審査委員より

文豪・井上靖氏の幼少期に由来する築150年経過の「上の家」の保存改修を、クラウドファンディングを活用し、地域住民、行政、大学、事業者が共同し、それぞれの強みを活かして完成させ、地域の交流拠点として整備しました。

「しろばんば」が生まれた地域性を資源と捉え、まちづくりへと顕在化させており、地元愛に裏打ちされた湯ヶ島ならではの取り組みです。

当時の情景を感じさせる丁寧な保存改修、外壁、内壁、暖簾などの改修における材料や技術へのこだわりは、うわべだけではない本物の景観形成に繋がっています。